

何のために、何をしに東京へ行くのか。東京研修の前日までの私は、それをよく分かっていなかったように思う。

今回の東京研修ではただ将来へのことについて考えるだけではなく、そこへ向かうためにどうすればいいのか、今から何をしていかなければならないのかななどを二高の OB、OG の方をはじめ、たくさんの人とお話する機会をいただくことで具体的に知ることが出来た。

その中でも印象に残っているのは 1 日目のディレクトフォース、そして企業・大学訪問だ。

まず、ディレクトフォースの基調講演では『「ものがたり」としてのものづくり~気軽な選択肢となる義手の開発~』というテーマのもと、貴重な話を聞くことが出来た。本来、障害の埋め合わせのために義手はあるのだと思っていたが、一つのファッション、個性として義手という手段を使って自分を表現するのだ、という発想にとっても驚いた。私たちはマイナスをいかに 0 まで持っていくか、ということに重きを置きがちだが、そうではなく、マイナスをプラスにする力が必要なのだと感じた。また、新しいことに挑戦していく上で、まわりからの反対はどうしても避けられないが、成功や失敗を繰り返していくうちにそれが自信となりまわりが認めてくれるようになるのだという。他の誰もが考えつかないこと、もしくは考えついてはいるのだけれど実行に移せないことに果敢に挑戦していくことが、世界で活躍していく上で必要なのだと思った。

グループディスカッションでは、さらに「対話」を通して様々なことを学んだ。

一人目の矢ヶ崎隆二郎さんからは世界という大きな舞台で働くことの面白さ、難しさを教えていただいた。異文化への好奇心や自由に働ける、という面白さはあるものの、やはり異文化の相互理解の難しさや第二次世界大戦の正・負の遺産がまだ残っているという現実を知ることができた。また、「絶対」という言葉を使ってはいけないということも仰っていた。あくまで自分の主観でしかないものに対して「絶対」という言葉を使ってしまえば、他人がどう感じ、どう考えているのかに触れることが出来ず、一つの視点からしか物事を見れない人になってしまうのだと感じた。今、もう一度しっかりと考えてみると、「絶対」という言葉は自分の意思を強く肯定し、相手の意思を拒絶する強い決意になりうるのだと思う。「絶対」という言葉を多様せず、他人の意見を受け入れる、視点の変化ができる人間になりたいと感じた。

二人目の青木脛さんからは社会に出る前に私たちが身につけなければならないことについて教えていただいた。私たちは、世界の中の小さな「日本」という国の小さな「宮城」という県のさらに小さな「仙台二高」という環境で生活している。まずは、そのような小さな世界で生きているということを実感するとともに、限りなく広いところへ出ていける、という可能性を持つことも自覚しなければならないのだと仰っていた。今、社会ではグロ

ーバル化や少子高齢化、テクノロジーの変化などが起きているが、そのなかで必要なのは「自立する強い力」、「受け入れる柔軟な力」、「想像する力」、「他人を思う心」だという。インターネットなども発達し、自分の考え方に影響を及ぼすツールが増えている今、常に Why、How という意識を持ち、そのなかで自分の意見をしっかりと持つことが重要なのだと感じた。

そして、企業・大学訪問では、私たちの班は「有限責任監査法人トーマツ」という、監査業界でも BIG4 と呼ばれるうちのひとつである、大手企業へ訪問させていただくことができた。公認会計士、という仕事を知ってから自分自身で調べたことはあったものの、もちろん実際にその仕事に就いている方の話は聞いたこともなく、インターネットには載っていないような、現場で働く方々の思いを伺うことで、よりその仕事の魅力を知ることが出来たと思う。

私の中のイメージとして、公認会計士という仕事はただ企業の監査をする、というものだったが、実際には大きく異なっていた。

公認会計士とはただ与えられた仕事をこなしていけばよいのではなく、クライアントとのコミュニケーションが必要なのだと言う。経営者と対等に話をし、そこから監査を核として、クライアントに応じた多様なサービスを提供していくのだそうだ。時に厳しいことを伝えなければならないことがあるこの仕事でも、言うべきことはしっかりと伝えつつ、ときには笑いを織り交ぜて場を和ませる雰囲気づくりを大切にしているのだと感じた。また、会計監査が初めての会社の場合、まずはその会社の社員の方々に監査の意義や仕組みなどについて理解してもらうところから始めるため、監査がその会社の将来にとって大きなメリットを生み出す、ということを説明していかなければならず、そういった意味でもコミュニケーションは大切なのだそうだ。クライアントが自分たちの報告を受け止めて課題をクリアし、着実に会社として成長していく姿も間近で見ることができ、やりがいのある仕事であると仰っていた。また、「AI の発達によって監査の仕事がなくなる可能性はありますか」と質問させていただいたところ、『その可能性はないと思う。』という答えが返ってきた。私の予想していた答えとは異なっていたため、理由を伺ってみると『人間相手に商売する会社が、どのようにしていけば発展していくのかはやはり人間にしか分からないから』というものだった。クライアントとのコミュニケーションも AI では絶対に出来ないものであり、この仕事はこれからの未来でも社会にとって必要なものになるということを知ることが出来た。

さらに、他の監査法人には見られないトーマツならではの特徴として海外に強い、というものが挙げられる。なぜだろうと思い調べてみると、等松農夫蔵さんと共にトーマツ創業に尽力した富田岩芳さんという方は早くから世界に目を向けており、「グローバル精神」を掲げてトーマツを日本初の国際的監査法人につくり上げたということで、歴史に根ざす根拠があるのだと納得した。駐在や短期の派遣制度を活用するチャンスが多いのも、そういう背景があるからなのだと感じた。また、社内の雰囲気がいい、という話も伺うことが

できた。違う部署の職員とも話す機会が多いということで、そのような社内の雰囲気の高さもトーマツの魅力なのだと思います。

この他にも、東大見学では実際に東京大学に在学している方から自分の将来についての考え方を教えていただいた。特にワークショップでは、自分の将来の目標のために東大に入った人と、自分の将来の目標が定まっておらず、なんとなく東大に入った、という人の話を聞くことができた。私自身、正直、やりたいことも自分が夢中になれることもなく、周りがしっかりと将来を見据えて活動している中ですこし焦っている部分もあったが、"なんとなく"で選んでしまっても、大学で生活していく中で見つけられればいい、と思うと少し楽になった。視野を広くし、自分の将来の道をせばめないようにしたい。

この2日間は本当にたくさんの人の考えに触れ、今までにないくらい、自分の将来について考えることができたと思う。これからの高校生活で、まずは夢中になれるものを探し、そこから自分の長所や短所を見つめ直すことが必要なのだと思った。また、グローバル化が進む中、やはり異文化理解は大切だと感じたが、その前にまずは私たちの住む日本という国についてもっと知るべきなのではないかと思うことが何回かあった。そうすることで、日本に誇りを持ち、他国の文化を尊重できる、世界に羽ばたいていけるような人間になれるのだと思う。